

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

表現の原点は理性だけではコントロール仕切れない感情や身体の動きだ。公園などで遊ぶ子供たちの歓喜の様子はつながっては離れる雀の群れのように、生命体の1つ1つが色彩を帯びて空間に行き交う流れのようである。子供たちの動きや表情は表現を意識しているものではないが、①といったありのままの様子を我々に伝えてくれる。無意識に遊ぶことが内面の感情を表している。

絵を描くことは表現の1つであるが、それを何か特別なことだと考えるのは適当ではない。また、最終的に作品は形態を残すが、そこに後づけして言葉や意味を補うこともないだろう。表現することの大切さは「私はこんなことに関心をもった。こんなことが面白かった」と我を忘れて夢中になって没頭していることが、他者へ直接伝わることにあがる。

大人になってからの制作では幾らか知恵が働くようになるため、何事にも方法や手順が優先されて、遊んでみるのが忘れられてしまう。また無駄をなくし前もって理解することが重要と思われがちだが、経験すること初めてわかることの方がはるかに重要だ。頭で理解したことは正解に近いが、経験上知ったことは真実になる。無駄こそが大切なのだ。先入観は誰しももつのだろうが、実際にやってみたことと自身の思っていたものに違いがあっても、その隔たりを感じることで先入観は払拭される。

制作の段階では自分が何に興味をもち、何を面白がっていたのか不明になってしまうこともあるだろう。また、慣れない画材の扱いにも不自由を感じるかもしれない。そうだとしても、成功、失敗、挫折、発見など、諸々をひっくり回して経験することが必要である。その体験が作品と一体となって画面から感じられ、表現そのものになってくる。

だが、表現する側はいつい見ると意識して、見られることを重視してしまふ。③、途端に作品の見え方だけが気になりだし、表現する側がたちまち見る側に姿を変えてしまふ。だからこそ、自由に発想し、自由に表現することを試みるべきなのだ。それが他者にとって取るに足らないことであつたとしても、自分にとっては大事な一歩になる。

3 次のうち、本文中の③に入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア しかし

イ すると

ウ ところで

エ なぜなら

4 ④ 描く側は子供のように遊び表現してみることとあるが、本文中で筆者が、子供のように遊び表現してみることが必要だと考える理由を次のようにまとめた。aに入れるのに最も適しているひとつぎのことを、本文中から五字で抜き出さない。また、bに入れるのに最も適しているひとつぎのことを、本文中から九字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

子供たちが遊ぶときのような、理性だけではコントロール仕切れない感情や身体が動きがaであり、子供のように遊び表現してみること、bから。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

書籍を目にせんには、あるいは一部、あるいは一巻のうちの縦横に見えずとも、まづするすると端より奥まで見とほすべし。しかあれば、部あまたにあたりて広智なるべし。一部のうち二篇など、本末よくよく心得落とさじとせば、道とぐるることかたし。たとへば、京へ上らんと心

ざす者の、里の辺、あるとあらゆる道をよくよく尋ね、海山の次第を覚えて、帰らん時のためにせんと思はば、心ざし①いたづらに費へて、退屈の儀もありぬべし。さきさき、大概見渡して、その里の辺に松あり、その所には河ありと心あてをしてとほるべし。そのごとく、物の本をも

作品の受け手が興味を引かれるものが何かと言えば、それは描いた人の向き合った先にあるリアリティだ。受け手にとっては、作品の内容を理解することは二の次で、作者が何を見て何を感じたのかを知りたいのである。喜び、楽しさ、苦悶、悲しさはさまざまな形で画面に含まれるであろう。だからこそ、描く側は子供のように遊び表現してみること。グラウンドとしての画面を自由に駆け回ってみても良いし、何かにつまずき転んだり、どこかの遊具に悪戦苦闘し困ってみても良いのである。それらのことがあつて初めて、内面が表情を伴って表現として現れてくるのだ。

表現することの意味は、表現者自身がどのように生きているかにある。自己の発見は個性の肯定だから、その個性を育むこと、獨創性や主体性を伸ばすことが学ぶことの目的であり、創造することの原点なのだ。

(吉川民仁「表現について」による)

(注) 払拭 〓 すっきり取り除くこと。

1 本文中の①には「人間のさまざまな感情」という意味の四字熟語が入る。次のことが①に入れるのに適した四字熟語になるように、に入る漢字一字を書きなさい。

〓 怒哀楽

2 ② 経験することとあるが、本文中で筆者が、表現することにおいて、経験することが必要だと述べる理由を次のようにまとめた。aに入る内容を、本文中のことが使って二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。また、bに入れるのに最も適しているひとつぎのことを、本文中から六字で抜き出さない。

経験上知ったことは真実になり、a ことで先入観が払拭され、さまざまな体験が作品と一体となって画面から感じられ、b になっているから。

しかしか見覚え候はねども、引きとほしてみれば、物に合ふ時思ひ合はくこと多し。

1 ① いたづらに費へてを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

2 本文において、「書物を読み通すこと」はどのようなこととたとえられているか。最も適しているひとつぎのことを、本文中から六字で抜き出さない。

3 次のうち、京へ上ろうとする人について、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 京へ上ろうとする人は、ありとあらゆる道をよく尋ねて、海山の様子も覚えてから里の辺りを通るべきである。

イ 京へ上ろうとする人は、自分の里へ帰るために、通ったところのようなのがあるかをすべて覚えるべきである。

ウ 京へ上ろうとする人は、だいたいを見渡して、どの辺りに松があり、河があるかを見当を付けて通るべきである。

エ 京へ上ろうとする人は、京へたどり着くために、通る道をあらかじめ覚えて道に迷わないようにするべきである。

4 ④ 引きとほしてみれば、物に合ふ時思ひ合はすること多しとあるが、本文中で筆者がこのように述べる理由を次のようにまとめた。aに入る内容を本文中から読み取って、現代のことはで十五字以上、二十五字以内で書きなさい。

書物をするすると最初から最後まで読み通すことで、a ことができるから。

三 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解含欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 社会の風潮。 | (2) 力を誇示する。 |
| (3) 魚を商う店。 | (4) 二つの役を兼ねる。 |
| (5) 荷物をトドける。 | (6) ケワしい山に登る。 |
| (7) メンミツな計画 | (8) 議論のヨチはない。 |

2 「書を学ぶは急流に浜るが如し。」の読み方になるように、次の文に返り点を付けなさい。

学書如浜急流。

3 次のア～エの行書で書かれた漢字のうち、楷書で書いたときと筆順が変化しているものとして最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 秋 イ 草 ウ 机 エ 雪

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

フランス南部のモンタストリュックの洞窟で発見された二つの「彫刻」がある。どちらも最終氷期末期のモノで、一方は、一万五〇〇年前頃に作られたトナカイの枝角に彫られたマンモスであり、他方は、一万三〇〇年前頃に作られた、マンモスの牙に彫られた二頭の泳ぐトナカイの彫刻で、「前方には体

業体制だった複数の領域のあいだのクロスオーバーが可能になると、それまで無関係だったものが、思いもよらないかたちで関係づけられるようになる。要するに、マンモスの牙の断片というモノと泳ぐトナカイのイメージが、どうしたとかオーバーラップするという事態が、作り手である人間の世界認識のなかに出現したということである。そこでは、自然に埋め込まれていた規則にかわって、人間が作りだした約束事が前景化している。

そしてそれは、言語における音と意味の関係の恣意性に似ているのではないだろうか。人間が発声可能な音の中から、意味の違いを生む最小単位である一定数の「音素」が恣意的に選び出されているが、それは言語ごとに異なる。さらに「音素」が組み合わされた語に、意味が恣意的に結びつけられている。例えば「トナカイ」という音の連なりも、それが意味する実在の動物のあいだに必然的な関係があるわけではない。つまり、ある素材を使って、全然関係のない別のものを表現することによって表現の可能性が一気に拡大したという点で、^③言語の発生と同形の現象ではないかと思えるのである。

(注) 古谷嘉章『人類学的観察のすすめ』による。

(注) 恣意的＝論理的な必然性がないさまのこと。

クロスオーバー＝ここでは、二つ以上のものが交わること。

オーバーラップ＝ここでは、重なりあうこと。

前景化＝ここでは、あるものが他のものより強調されていること。

1 次のうち、本文中の①に入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 必然的 イ 偶然的 ウ 恣意的 エ 流動的

の小さいメスのトナカイがいて、牙の最先端がその鼻先になっている。メスの後ろの牙が太くなっている部分では、体の大きなオスがいる」(100のモが語った世界の歴史Ⅰ 文明の誕生)。大英博物館館長だった美術史家N・マクレガーは、これらの「彫刻作品」を手掛かりに芸術の誕生について論するのだが、私がここで注目したいのは、作品の素材と題材の関係である。

トナカイの枝角にトナカイの姿が彫られ、マンモスの牙にマンモスの姿が彫られているのであれば、描写しようとしている動物の一部を使って全体が表現されていることになる。つまり素材と題材のあいだに①な連続性がある。しかしトナカイの枝角を素材にマンモス像が作られ、マンモスの牙を素材にトナカイ像が作られるのであれば、何を材料にして何を製作するのか、つまり素材と題材の組合せに必然性は感じられない。手近な材料を使うといった偶然の結果だろうか。あるいは、隠された意図があるのだろうか。その真相は今となっては不明だが、ここで注目したいのは、物質が、人間にとってさまざまなモノへと加工しうる素材としての潜在的可能性を獲得したという点で、物質と人間の関係をめぐる新しい状況が出現したということである。

この変化の意義は、いくら強調しても強調しすぎることはない。自然環境とそれを構成する自然物は、それに取り囲まれて生きる人間にとって一定の条件として働く。その条件の下で人間は、手に入る食べ物を摂取し、木陰で雨露をしのぎ、洞穴で休み、生活を営んでいた。しかし、そうした環境利用にとどまらず、そこに、自然には存在しない新しいモノを作るための素材を発見することによって、自然環境が豊かな「資材倉庫」へと変貌したのである。

素材と題材の恣意的な組み合わせという選択肢を、ひとたび手にすれば、そこからは信じられないような可能性が生まれる。何を材料にして何を作っても良いのだ。このことを逆から見れば、そのハードルを越えるまでは、トナカイの枝角を見てもマンモスのことなどイメージできず、マンモスの牙を見てもトナカイをイメージすることなどできなかったということになる。では、このハードルを越えることができたのは、人間の側のハードウェアの変化なのだろうか、あるいはソフトウェアの変化なのだろうか。考古学者のS・ミズンの「領域固有の知能」間の流動性の高まりという説は、説得力のある解釈のひとつかもしれない(心の先史時代)。つまり人間の頭脳の中で、それまで分断され分

2 自然には存在しない新しいモノを作る」とあるが、本文によると、人間がこのようなことができるようになったのは、自然物がどのようなものになったからか。その内容についてまとめた次の文の□に入るのに最も適しているひとつづきのことを、本文中から十六字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

自然物が人間にとって□になったから。

3 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 美術史家N・マクレガーは、フランス南部のモンタストリュックの洞窟で二つの「彫刻」を発見し、これらの「彫刻」を手掛かりに芸術の誕生について論じ、芸術作品に隠された意図を明らかにした。

イ 人間は、自然環境とそれを構成する自然物に取り囲まれながら生活を営んでいたが、それらを利用しなくなったことで、自然物と人間の関係が変化し、何でも作ることができるようになった。

ウ 人間の頭脳の中で、複数の領域のあいだのクロスオーバーができるようになり、無関係だったものが関係づけられるようになったことで、自然に埋め込まれていた規則が前景化するようになった。

エ 言語においては、意味の違いを生む最小単位である一定数の「音素」が、人間が発声可能な音の中から恣意的に選び出されており、どのような「音素」が選び出されているかは言語ごとに異なる。

4 ③言語の発生と同形の現象ではないかと思える」とあるが、本文中で筆者は、二つの「彫刻」のどのような点が言語の発生と同形の現象かと思えるか述べているか。その内容についてまとめた次の文の□に入る内容を、本文中の□を使つて四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。

素材と題材を□という点。

受験
番号

番

得点

二									
4					3	2	1		
					ア				
					イ				
					ウ				
					エ				